



profile

昭和53年9月12日生まれ。
趣味はバイク、バックカントリー、射撃。成香在住。44歳。

地元農業の発展に
貢献できる農業者を目指して

Spotlight

スポットライト



北海道農業士協会 会長

大廣 和幸さん

「自分が食べたいと思うものをつくり、食べものをつくることに生きがいを見出し、農業をしている時間がとても楽しいです」。そう話すのは北海道農業士協会会長大廣和幸さん。

大廣さんは洞爺湖町の出身で、八紘学園北海道農業専門学校を卒業後、地元に戻り家業である農業に就きました。「農業は複合的な技術の上

に成り立っている職業だと感じていて、畑で作物を作るのはもちろんのこと、作業機械の整備や農薬の配合、在学中には平板測量を習うなど、農業といってもさまざまなことを学ぶことができ、知識の習得やスキルアップができるのも魅力の一つ」と言います。

35歳のときに、家業を継承してからは、スイートコーンやセルリーなど新たな品目にも挑戦しています。どちらも自分が大好きな野菜で、食べたかったということもありますが、特にセルリーは「野菜

作りを覚えたい、葉茎菜類の栽培方法を学んで栽培技術を広げたかった」と始めたきっかけを話します。「洞爺湖町は道内でも屈指のセルリーの産地として確立されましたが、生産者の高齢化などにより栽培面積や生産量が減少しているため、栽培技術を継承し

絶やさず続けていきたい」との思いもあつたと続けます。さらに、昨年、北海道農業士協会の会長に就任した大廣さんは、農業士の研鑽の場を作ることに意識を持って活動しています。また、20〜30歳の若手農業者には「いろいろなところにアンテナを張り、失敗を恐れずさまざまなことにチャレンジしてほしい」とアドバイスを送りま

す。最後に大廣さんは「町の基幹産業である農業の発展に貢献できる農業者を目指していきたい、自分よりもさらに若い世代の農業者と切磋琢磨しながら地元の農業を盛り上げていきたいです」と意気込みを語ります。

東奔西走



「広報とうやこ」が発刊200号を迎えました。1号発刊から16年余、私自身も担当として作成に携われたことをうれしく思います。これからは皆さんに親しまれる広報づくりを目指していきますので、よろしく願います。(M.O)

200号の大きな節目を迎えた広報とうやこ。創刊号を読み返すと町民の顔が見える記事が多く掲載されており、読み物としても楽しめました。皆さんは広報誌でどんな記事が読みたいですか？次の節目を迎えるためにもさまざまな意見を寄せていただけると幸いです。(D.Y)

今月のワンショット



紅葉に彩られた浮見堂公園